

APHS 報告

大阪労災病院外科 若杉正樹

APHS 2018 in Dubai に参加しました。私にとっては 2018 年の高雄につづく 2 回目の APHS 参加でした。高雄のときには全く感じなかったのですが、演題登録や参加費振込、registration などに若干の困難を感じました。とくに参加費振込はクレジットカードを使えるようにしてほしいかったです。(外国送金が必要でした。)

学会では、巨大腹壁癒痕ヘルニアの発表に興味をひかれました。日本ではあまりお目にかかることのない大きさの腹壁癒痕ヘルニアを 50 x 50 cm のメッシュで修復していました。鼠径部ヘルニア手術については、日本とそれほど変わらないように感じました。高雄での APHS 2017 と比べて、演題数自体が少なく、ポスター発表も 30 題程度で、さびしい印象を受けました。日本からの発表も少なかったようです。

私の発表は肥満患者に対する単孔式 TEP の手術成績についてでした。国際学会で口演するたびに自分の英語力のなさを痛感させられます。single center での retrospective study に限界を感じましたし、もうネタも尽きました。日本ヘルニア学会主導で多施設共同ランダム化比較試験をいっぱい行なって、APHS などで世界に発信していけばよいのではないかと(勝手に)思っています。

観光では、非日常的な経験をたくさんさせてもらいました。日本では遠くから見かけるだけのご高名な先生方と直接お話しさせていただく機会をいただき、刺激を受けました。滞在中は、西宮市立中央病院の吉岡慎一先生とほぼ一緒に行動させてもらいました。砂漠に行って一緒にラクダに乗ったのは良い思い出です。

最後に、APHS Scholarship をいただき、ありがとうございました。とても助かりました。日本ヘルニア学会を通じた社会貢献によって、今後お返ししていきたいと思っています。